

直説法近過去形

1. 近過去の使用法と形

近過去は現在と関係のある過去に用いられます。

例えば「私は1980年に生まれた」、という時にその人は通常まだ生きていると考えるので、現在と近接した過去、近過去を用います。一方、「Dante Alighieri は1265年に生まれた」という場合、明らかに故人で、現在とは繋がっていないので、遠過去と言う時制を使います。基本的にはこういう考えで使い分けしますが、実際にはその人の記憶の中の時間的距離も関係あります。例えば、3年前のことで遠い昔のことのような気分であれば、その時には遠過去形を用いることもあるのです。

しかしながら、近年「口語」においては、遠過去を使う状況でも近過去形を使用する傾向があり、特にイタリア北部では遠過去形を殆ど使いません。

直説法近過去は

助動詞(averе または essere)の直説法現在形 + 動詞の過去分詞

という形をとって、過去の完了した事柄を表します。

2. 過去分詞の形： 規則的な過去分詞変化と不規則なものがあります

規則変化する過去分詞

規則変化	過去分詞の形	例	
ARE動詞	-ATO	amare	amato
		cantare	cantato
		andare	andato
		cercare	cercato
		mangiare	mangiato
		camminare	camminato
ERE動詞	-UTO	tenere	tenuto
		vedere	veduto(または visto)
		avere	avuto
		credere	creduto
		battere	battuto
-cereと-scereで終わる動詞は -ciuto(piacere piaciuto) -sciuto(conoscere conosciuto)となります			
IRE動詞	- ITO	finire	finito
		sentire	sentito
		capire	capito
		restituire	restituito